

# 300人の社長

阪急グループの創業者、小林一三のエピソードを紹介します。

あるとき社員に対し、「私は忙しくて世の中のことを勉強することができなくなった。そこで、よく繁盛している店や、ヒット商品があったら教えにきてほしい」と頼んだそうです。

しばらくして一人が報告に来ると、一緒に店や商品を見学し、「また見つけたら教えてくれ」と言います。社長にそう言われて、社員はさらに熱心に探すようになりました。

数年たったころ、何度も報告に来る社員に対し、「君が見つけてきた商売があっただろう。君にやってもらおう。会社をつくるから社長をやりなさい」と言いました。その社員に、商売を見る目が育っていると判断したのです。そうして小林一三は300もの会社をつくり、300人の社長を育てました。

仕事の実力は、自分で関心を持ち、行動することで身に付きます。押し付けられるのではなく、自主性を引き出す工夫が必要です。

また、人を育て、重要な役を任せせる勇氣は、並大抵ではありません。それを理解したうえで、育てられるほうも、伸びようとする努力が大切です。

## 今日の言葉

人育ての名人に学びましょう

今日の気づき

コメント

小林 一三 明治6～昭和32年(1873～1957年) 山梨県巨摩郡河原部村(現在の韮崎市)生まれ。日本の実業家、政治家。阪急電鉄・宝塚歌劇団・阪急百貨店・東宝をはじめとする阪急東宝グループ(現・阪急阪神東宝グループ)の創業者。グループ以外も東京電燈の経営に参画したり、国政で商工大臣、無任所の国務大臣を務める。